

水稲品種「ユメコガネ」の生育・栄養診断基準と栽培法

水稲品種「ユメコガネ」について、収量・品質安定化のための生育・栄養診断基準を策定し、栽培法を示した。

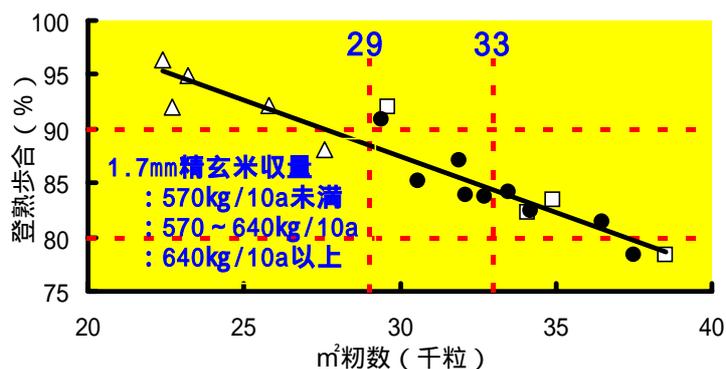


図1 粒数と登熟歩合及び収量

安定して80%以上の登熟歩合を確保するための m^2 粒数は、33千粒程度が上限と考えられる。

また、1.7mm精玄米収量570kg/10a以上（1.9mm精玄米収量540kg/10a以上）を確保するためには、 m^2 粒数29千粒以上が必要である。

基肥窒素量を少肥（4kg/10a）にすると、目標 m^2 粒数を確保できない場合がある。

また、多肥（8kg/10a）では粒数は過剰となり、稈長が伸びて倒伏の危険性が高くなるので、「いわて26」並の標肥（6kg/10a）とする。

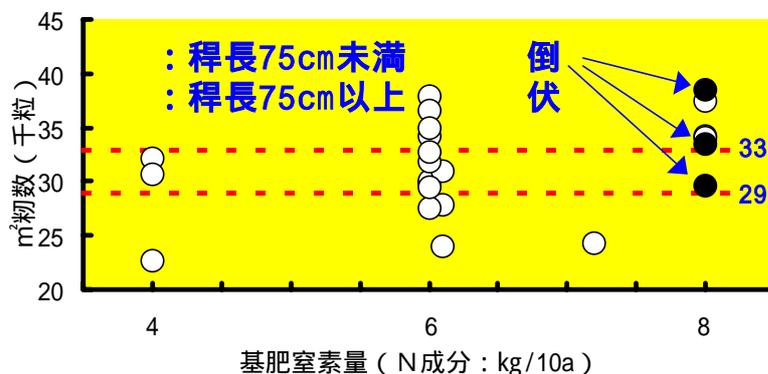


図2 基肥窒素量と m^2 粒数及び稈長・倒伏

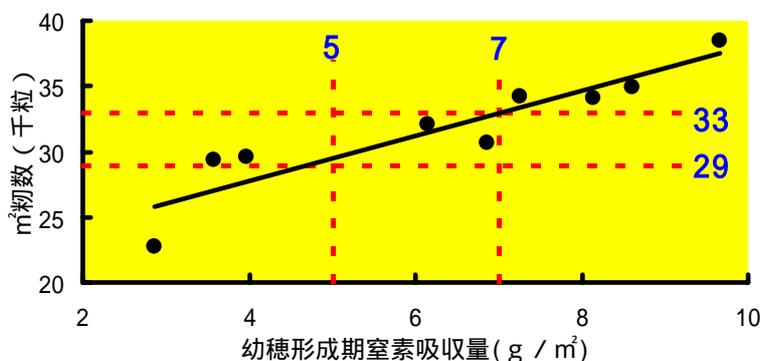


図3 幼穂形成期窒素吸収量と m^2 粒数

追肥が可能となる幼穂形成期窒素吸収量は $5.0 \sim 7.0g/m^2$ （葉色はカラスケールで $5.4 \sim 5.7$ ，葉緑素計で $42 \sim 46$ ）である。

なお、幼穂形成期の追肥は、その後の気象状況などを勘案した上で実施する。